

令和6年度 第2回新潟市歴史博物館運営協議会

日時：令和7年2月14日（金）午後2時00分～

会場：新潟市歴史博物館 本館2階セミナー室

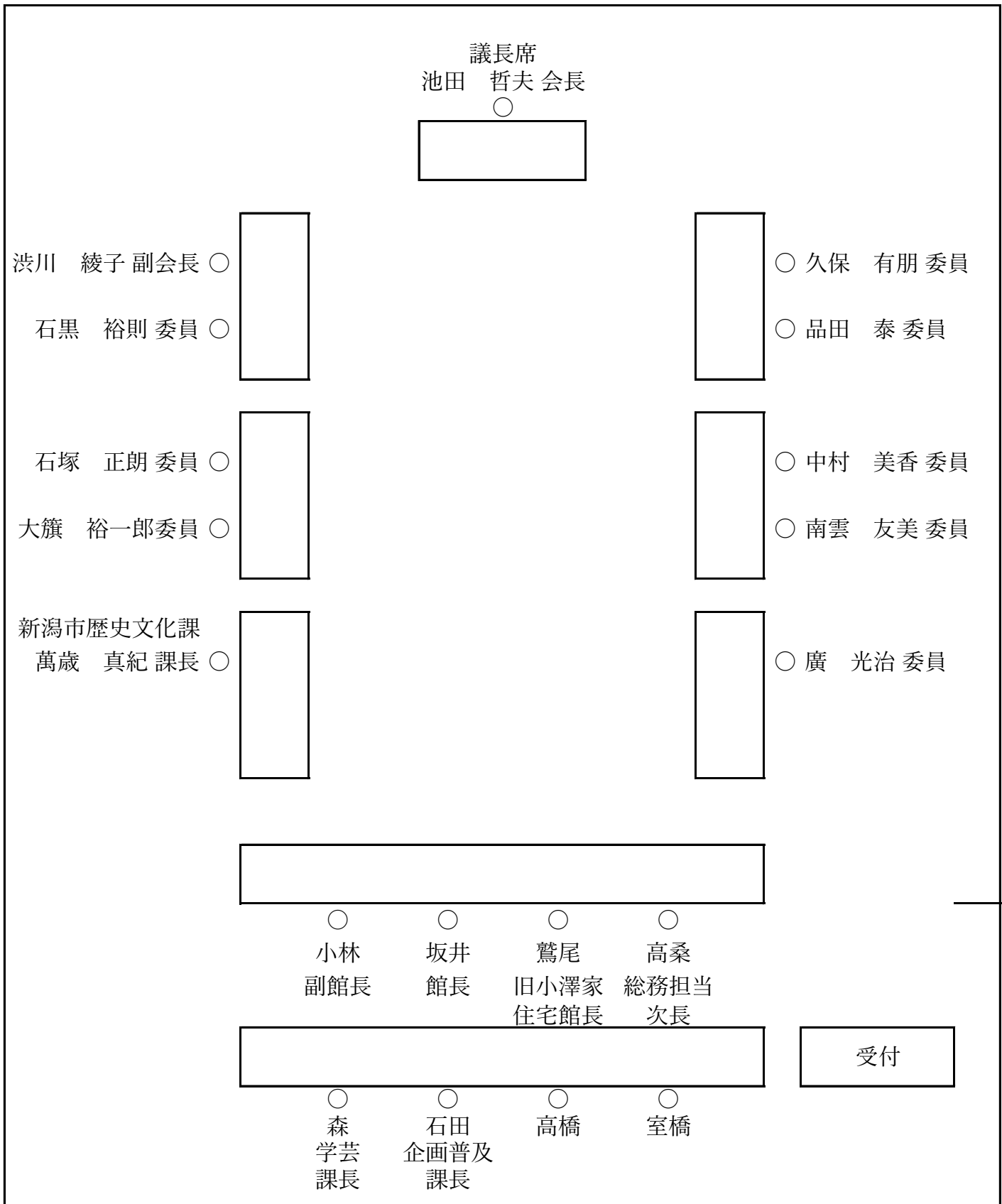
次 第

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 令和6年度事業報告
 - (2) 博物館の理念・課題・評価について
 - (3) 令和7年度事業計画
 - ① 歴史博物館
 - ② 旧小澤家住宅
- 4 その他
- 5 閉会

令和6年度第2回 新潟市歴史博物館運営協議会
席 次

日時： 令和7年2月14日（金）午後2時～

会場： 新潟市歴史博物館 本館2階セミナー室



新潟市歴史博物館運営協議会
(R5～R6年度) 委員名簿

(令和7年1月1日現在)

	氏名	所属・推薦団体等
1	池田 哲夫	新潟大学人文学部名誉教授 (民俗)
2	石黒 裕則	新潟市立木崎中学校長
3	石塚 正朗	新潟日報社 読者局 ふれあい事業部長
4	大籾 裕一郎	新潟市小中学校PTA連合会 副会長
5	久保 有朋	古町花街の会
6	坂井 隆一	新潟市立和納小学校長
7	品田 泰	B S N新潟放送 ビジネスプロデュース局 事業部長
8	渋川 綾子	にいがた湊あねさま倶楽部
9	中村 美香	(有) ミカユニバーサルデザインオフィス
10	中村 元	新潟大学人文学部教授
11	南雲 友美	公募委員
12	廣 光治	日本旅行業協会 関東支部 新潟県支部長

(50音順)

オブザーバー	萬歳 真紀	新潟市歴史文化課 課長
--------	-------	-------------

新潟市歴史博物館運営協議会
事務局 名簿

(令和7年1月1日現在)

役職		氏名
新潟市歴史博物館		
	館長	坂井 秀弥
	副館長	小林 隆幸
	総務担当次長	高桑 一代
	企画普及課長	石田 孝子
	学芸課長	森 行人
	職員	室橋 亜衣
新潟市文化財 旧小澤家住宅		
	館長	鷺尾 雄二
	職員	高橋 久美

新潟市歴史博物館運営協議会設置要綱

(設置)

第1条 館長は、新潟市歴史博物館（以下「博物館」という。）の運営について意見を聴くため、新潟市歴史博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員)

第2条 協議会の委員は次に挙げるもので構成する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 学識経験者
- (4) 公募により選抜された者
- (5) その他館長が必要と認めた者

(定数)

第3条 定員は15名以内とする。

(任期)

第4条 協議会の委員の任期は2年とし、令和5年4月1日から令和7年3月31日までとする。ただし、任期中に委員が交替する場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。なお、委員は再選されることは妨げない。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は会務を総理する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

- 2 協議会の会議は、定数の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。
- 4 会長は、必要のあるとき、委員以外のものを会議に参加させることができる。ただし、その者は、採決に参加できない。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、新潟市歴史博物館企画普及課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱で定めるもののほか、会の運営に関して必要な事項は、会長が別に定めるものとする。

附則

この要綱は平成16年1月1日から施行する。

この要綱は平成17年7月27日から施行する。

この要綱は平成18年4月1日から施行する。

この要綱は平成20年4月1日から施行する。

この要綱は平成22年4月1日から施行する。

この要綱は平成23年4月1日から施行する。

この要綱は平成25年4月1日から施行する。

この要綱は平成27年4月1日から施行する。

この要綱は平成29年4月1日から施行する。

この要項は平成31年4月1日から施行する。

この要綱は令和3年4月1日から施行する。

この要綱は令和5年4月1日から施行する。

令和7年3月31日制定

新潟市歴史博物館・旧小澤家住宅の運営方針（案）

<令和7年度～令和11年度>

1. 策定の趣旨

新潟市歴史博物館（以下、「博物館」という）及び旧小澤家住宅（以下、「旧小澤家」という）は新潟市が設置した施設であり、博物館は今年で開館20周年、旧小澤家は今年で開館13年を迎える。両施設とも開館時より新潟市が100%出資している公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団が指定管理者として運営を担っている。

開館20周年を迎え、これまで種々の成果を上げてきたが、予算の確保に加えて、施設の老朽化、展示内容やそれに関する機器の更新、さらには開館準備室以来の職員の世代交代を迎えるなど、博物館を取り巻く環境も大きく変化し、多くの課題を抱えている。これまで新潟市の歴史・文化財、観光、地域振興等において、博物館が果たしてきた役割の大きさ、重さを考えると、それを担ってきた財団博物館は引き続きこの課題に取り組む責務がある。

これらの課題を解決しつつ、博物館事業の維持向上を図るためには、まずは、博物館の各事業の内容とその成果、課題などについて客観的に把握・分析して「博物館事業の見える化」を図る必要がある。そのうえで、博物館内部においては、職員間で目的・目標を共有し事業の改善に努めるとともに、財政負担を伴う課題については、市当局の理解を得る必要もある。

そのためには各事業の目標の設定と評価が不可欠であり、それを市当局はもとより広く市民に提示する必要がある。それを踏まえて、不断に活動の検証と改善を行っていくことが、よりよい博物館づくりへの出発点となる。

そこで、博物館法の改正に立脚し、今日の新潟市の情勢・施策において市の博物館に求められる役割を、今後5年間（令和7年度～令和11年度）を計画期間とした財団博物館の活動指針となる新たな「運営方針」として定める。

2. 社会情勢の変化

現在当館及び旧小澤家住宅の取り巻いている社会情勢の変化の主なものとして、①人口減と少子高齢化の進行、②ICTの進化と普及、③持続可能な開発目標（SDGs）の推進、④文化芸術基本法の成立に伴う博物館法の改正、が挙げられる。

（1）人口減と少子高齢化の進行

人口減、少子高齢化の進行に伴い、まちづくりや産業の担い手の減少、税収の減少に伴う財源の縮小、利用者数の減少などが見込まれる。

こうした中、新潟市への人の流れを生み出し、新潟市のくらしの魅力を伝えるために文化資源の活用が期待されている。特に市の将来を担うこどもや若者に対して、新潟市の歴史・

文化を知り、市に愛着や誇りを育む取り組みが期待されている。子育て世代に対して、子育て環境の文化・教育面での魅力向上に寄与する取り組みが期待されている。

また、幅広い世代が活動できる場の創出が期待されている。

(2) ICTの進化と普及

ICTの進化と普及により、情報伝達手段も既存のマスメディア（TV・ラジオ・出版等）に加え、WEBを介した多様なコミュニケーションが容易になった。それにより文字・音声・写真・動画といった多彩なコンテンツの送受が可能となった。また、小中学校授業ではデジタル化が進行し、WEBを介した端末上での資料の利用も広がっている。

こうしたICTの進化と普及に対応し、博物館事業のDX化を推進し、地域社会での活用を広げるネットワークを介した情報発信が求められている。

(3) 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

省エネや環境に配慮した施設運営、既存の資源を活かした活動の推進や、博物館・旧小澤家住宅を将来の文化資源として継承できるよう防災への備えの強化が求められている。

また、誰ひとり残さない社会への実現に向けて、物理的・心理的にも社会的障壁を取り除くような運営が求められている。

(4) 博物館法の改正

令和4（2022）年、博物館法が大幅に改正された。この改正を踏まえた事業の実施が求められている。

3. 博物館活動の基盤となる法令上の根拠と開館20年の実績

(1) 博物館法の改正

博物館は博物館法に定める指定施設（旧博物館相当施設）であり、この法令に則り運営している。令和4（2022）年、博物館法に大幅な改正が加えられた。昨今の社会状況の大きな変化を踏まえ、上位法に旧来の社会教育法のほか、平成29（2017）年に制定された文化芸術基本法が加えられた。博物館運営もこの精神に基づくことが定められた。

「文化芸術基本法」は、文化芸術の施策に関わる基本理念や基本事項、国や地方公共団体等の責務等を定める。文化芸術が人間に多くの恵沢をもたらし、心豊かな社会を形成するものであることから、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を図ること等を基本理念に掲げ、文化財等の保存活用、生活文化や伝統芸能の振興等の施策を定めている。

博物館法の改正はこれを受けて、教育や学術・文化の振興にとどまらず、地域の多様な主体との連携・協力により、教育、学術及び文化の振興はもとより、文化資源を活用して文化

に関する理解を深める「文化観光」やその他の活動の推進を図り、それによって地域の活力の向上に寄与するよう努めることを博物館に求めている。

また、今日の ICT 情報の発展と普及を踏まえ、博物館が持つ資料をデジタル化して保存するデジタルアーカイブの作成と公開を、博物館が行う事業の一つとして新たに明確に位置付ける。

(2) 当館の上位計画

当館の上位計画である『新潟市総合計画 2030（令和 5 年 3 月策定）』では、「活力あふれるまちづくり」、「持続可能なまちづくり」を基本理念とし、「田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を目指す都市像として掲げ、「文化芸術の発展・継承による心豊かな暮らしの充実」を目指している。

また、『新潟市文化創造都市ビジョン（令和 6 年 3 月策定）』では、新潟市総合計画を受けて、基本的なビジョン（展望）として「文化芸術によって育まれた、市民一人ひとりの心の豊かさやいきいきとした暮らしが、将来にわたってまち全体を活性化している」ことを掲げ、「心の豊かさ」「いきいきとした暮らし」「まち全体の活性化」の 3 つの施策推進の視点を設定する。

市民一人ひとりが文化芸術活動の主体であることを起点とし、市民の文化芸術への興味関心が高まり、主体的に参画することを促し、文化芸術によって人と人とが交わり、地域振興やまち全体の活性化につながっていくことを目指す。

新潟市が掲げる将来像として、総合計画上の文化芸術関連施策を推進する上で、①「いきいきとした暮らし」においては市民の交流機会の充実化と歴史的資産の次世代への継承、②「まち全体の活性化」においては新潟の特色ある文化資源の発信と活用の充実化等の実現を挙げる。

①では地域に根差して受け継がれてきた文化財や歴史的建造物、民俗芸能などについて、その本質的価値を明らかにするために多様な主体と連携・協働により調査研究を行い、その価値を市民が認識し、理解を深め、共有することを通して気づきや学びを誘発する機会を創出するとともに、担い手の育成の支援などを通して保存・継承に進めるものとする。

②においては、地域の気風が長い時間をかけて育んだ「みなとまち文化」などの文化・歴史的資産や、市民が共感できる地域資源の魅力を発信し、市民が新潟らしさを文化に見つけ、誇りに思うことができることを期待する。

(3) 新潟市歴史博物館設置条例

当博物館は、平成 15 年 9 月の設置にあたり、設置条例に「市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する」ことを目的として掲げた。そのために「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を媒介とした市民交流を行うこと」とした。主体としての市民像を念頭において、開館当初から活動を積み重ねてきた。

(4) 開館20年の実績と課題

①活動の実績

博物館の20年間の活動の実績として、新潟市内の歴史的資産を博物館資料として収集・保存し、館の基本テーマである「湊と湊町」と「低湿地の暮らし」を軸に調査研究を進めて、企画展「新潟の舟運」「舟と船大工」「絵図が語るみなと新潟」「大新潟湊展」「蒲原平野の20世紀」「開墾の技術」「潟の暮らし」「北前船と新潟」などの展示事業や「浜潟山」などの講座をはじめ各種の教育普及事業、「図説新潟開港150年史」執筆等を通じて市の特色ある歴史像の発信を重ねてきた。また、展示事業や教育普及事業において開館当初から市民交流の推進と支援を重視し、特に、ボランティアは館と来館者を媒介し、館の情報発信に欠かせない存在となっている。

また、2017年度「墓石に近世新潟町の歴史を探るプロジェクト」や2019年度「新潟開港150年 新潟古町の記憶と魅力発信事業」などの市民参加型の調査・研究事業においては、市民交流を通じて調査・研究成果の活用が広がるとともに、市民自らが地域の歴史を掘り起こし、過去の人びとの営みを実感するとともに、地域に誇りと愛着を育むことにつながることができた。

さらに、近年実施してきた未就学のこどもを対象とした新たな活動や学校との連携の拡充は、小さいころから博物館に親しむことを重視し、あらたな若年層の利用拡大につながる取り組みのひとつとなっている。

②今後の課題

「市民の社会的活動及び文化的活動に寄与すること」の実現に向け、館の外へ出たの地域づくりに関わる事が挙げられる。

歴史資料の情報公開の遅れも課題となっている。歴史資料をはじめ文化資源が、市民に広く、十分に活用されるためには、基礎的な所蔵資料の情報公開が不可欠である。

さらに、文化芸術基本法が定める「その年齢、障害の有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備」を進める上で、開館時に用意した五か国語対応の音声ガイドに故障が多く発生し、外国人や障がい者の利用サービスを低下させていることが課題となっている。

4. 新潟市歴史博物館の理念と目指す博物館像

博物館活動の基盤となる法令や上位計画、これまでの実績と課題を踏まえ、当館の運営理念を次の通り掲げる。

(1) これからの博物館の運営理念

海と河川流域を結んだ信濃川河口の立地と歴史が持つ意味をふまえ、重要文化財旧新潟税

関庁舎の歴史的価値と、昭和 46（1971）年以来ここで 30 年間にわたり運営された旧新潟市郷土資料館の蓄積を継承しつつ、新潟市の歴史の特性を明らかにする。そしてその根拠となる文化財や歴史資源等を後世へ継承する。

博物館の調査研究の成果を市民と共有し、地域に対する誇りと愛着を育むことを促す。その経験や感動を他者と共有し、交流できる機会を提供する。

地域の多様な主体との連携・協力により教育のみならず、観光、まちづくり、そのほかの分野への歴史・文化資源の効用の拡大を図る。

（2）目指す博物館像

上記の運営理念を具現化するため、5つの目指す博物館像を掲げる。

① 継承する博物館

新潟市域の歴史に関する情報を収集して再構築を図るとともに、地域に根差して受け継がれてきた歴史資料を市民共有の財産として収集・保存し、後世へ継承する。

収集した歴史資料は、それぞれの性質や性格に応じた保存環境を整え適切な保存管理を行う。また、調査研究に基づき情報を整理するとともに、資料と情報へのアクセスを整備することで、より効果的な活用を図る。

また、市内外の関係施設・団体と連携・協力した歴史資料の収集・保存活動により、館内外の枠を超えた新潟市の歴史像を物語るコレクション形成を目指し、その適正な保存管理に貢献するとともに、それらの文化資源としての価値の向上に取り組む。

② 明らかにする博物館

調査研究を通じて、所蔵する歴史資料や地域に残る文化遺産などの本質的価値を踏まえ、当地域ならではの歴史の特性を明らかにする。その際、市民が地域の歴史に関心を持ち、誇りと愛着を育むためにも、これまでこの地に生きてきた幾多の人びとの存在と営みに光をあてることをこころがける。

また、一般の個人や研究者、様々な団体・機関の調査研究等の活動を支援し、必要に応じて所蔵する歴史資料や調査研究情報を提供する。また、市民と協働した調査・研究事業を行うことで、歴史解明にかかわる市民の人的育成にも寄与する。

③ 発信する博物館

調査研究を通じて明らかにした新潟市の歴史的特性を、展示事業や講演・講座をはじめとした教育普及事業、参加体験型の事業や出版事業等で発信する。その際には、市民の理解を深め気づきや学びを誘発すること、及び市外来訪者が新潟市に興味関心を抱くことができるように、分かりやすく興味が持てる発信を心掛ける。

また、新潟市の歴史像や文化の様相、その基礎となる歴史遺産の情報について、デジ

タルアーカイブの公開など多様な方法で発信・提供する。

④ 交流する博物館

当館は開館当初から、人と人とのつながりによる情報伝達やホスピタリティを重視し、それを体現するため館活動をサポートするボランティアスタッフの育成に努めてきた。来館者と館スタッフの間にボランティアスタッフが加わることで、それぞれが刺激し合い、相乗効果を高めてきた。人的交流から得られる情報は予測不能な魅力があり、印象にも残りやすい。

今後も歴史を媒介とする交流を重視し、市民や観光客、授業で来館する生徒など、世代や立場を超えた来館者が歴史・文化への理解を深め、歴史・文化をめぐる発見や学び、感動を分かち合う場を創出する。

⑤ つなぐ博物館

教育機関や観光、まちづくり団体などのほか、地域振興に寄与するためにこれまで博物館とのつながりが希薄だった地場産業などの分野とも柔軟に連携し、博物館の外で行うアウトリーチや調査を共同で実施するとともに、さまざまな主体が行う活動への支援・協力をを行い、館内外の枠を超えて市全体の歴史・文化資源の活用機会を向上させる。また、それに伴って文化観光の推進も図り、地域の活性化と地域の文化財への理解と保全の増進にも寄与する。

さらに、館の利用機会が乏しかった世代（未就学児・高校生など）へもアプローチし、館の優位性を示すとともに、館の利用拡大を図る。

5. 中期計画（令和7年度から令和11年度）

これまでに示した博物館像や理念、社会情勢の変化などを踏まえ、下記の取り組みを中期計画の重要事業（課題）として位置付ける。

（1）多様な主体との連携

博物館の外部の多様な主体と連携し、館の内外の枠にとらわれず、市の歴史文化に関わる活動の活性化を支援し、地域づくりに寄与する。

・具体的な評価軸と指標：別紙参照

（2）資料情報のデジタルアーカイブ化の推進

所蔵資料の整理、データベースの登録を進めるとともに、企画展や講座を成果とする調査情報を含めた資料情報のデジタルアーカイブ化を進め、博物館ホームページ上での公開を推進する。

・具体的な評価軸と指標：別紙参照

(3) インクルーシブな視点からの展示改善

展示事業の見直し・改善を中心に、外国人や障がい者がよりよく利用できる環境の整備をICT機器の普及を利用しつつ、あるものを活かして取り組みを進める。

また、ミュージアムシアターの新たな作品を製作し、旧来作品にはなかった字幕を付けた作品を製作することで、ユニバーサルデザイン、バリアフリーを推進するとともに、ハンズオンや体験プログラムなど教育普及事業を充実させ、障がい者・健常者・高齢者・外国人といった属性・年代を問わず、誰もが歴史に親しみ、文化資源を活用できる環境整備を進める。

・具体的な評価軸と指標：別紙参照

(4) 年齢段階に応じた取り組み

人口減、少子化の進行に対応し、引き続き学校との連携を充実化させるとともに、3年生時に市内の多くのこどもが来館する状況を活かし、こども・若者の各年齢段階に細やかに対応したプログラムを設けて博物館利用の定着を促進する。これを通じて、新潟市の歴史・文化への愛着や誇りを育むとともに、こども・若者が歴史・文化を媒体として交流する場を創出する。

・具体的な取り組みは下記、評価軸と指標は別紙参照

4-1 はじめてみなとぴあの開催

未就学児等今まで参加が難しかった年代・属性の人々が博物館に興味をもってもらうきっかけをつくとともに、その後の定着化を図る。

4-2 高校生ボランティア

これまで利用者層の少ない高校生の活動の場を作るとともに、当館を文化資源として活用した活動に寄与する

(5) 文化資源としての価値の向上

・具体的な取り組みは下記、評価軸と指標は別紙参照

5-1 みなとまち新潟を核とする合併地域を結ぶ地域像の発信

博物館は新潟平野に広がる信濃川・阿賀野川流域と海を結ぶ、信濃川河口に立地する。その歴史的な背景を踏まえ、みなとまち新潟の核となる古町学の取り組みと成果を継承して、流域を結ぶ舟運や潟といった新潟市の環境から育まれた歴史的なつながりを明らかにする。その成果を新潟市合併20周年の節目に、ミュージアムシアターの新たな作品や企画展の開催を通じて発信するとともに、文化資源の活用により文化観光の場としての価値を高め、交流人口の増加及び地域づくりの活性化に寄与する。

5-2 SNS発信の強化

情報は生ものであるとともに、ブランディングに寄与する魅力はまだまだロケーションに潜在している。広報スタッフが中心となり、発信の即時性と共有性を特徴とするSNSを中心に、フォトスポットをはじめとする調査を進めて魅力を発掘し、時期を逃さず博物館・旧小澤家住宅の旬な情報を発信することで来館者増やリピーター増に貢献する。

5-3 ミュージアムグッズの充実

ミュージアムグッズは館のイメージに影響を与えるものであり、事業に比べ小さいものではあるが、館全体のイメージ（ブランディング）にも影響を与えるものである。また来館したくなる博物館・旧小澤家住宅を目指し、ミュージアムグッズの拡充に取り組む。

令和7年度 活動評価表

取組事業	①多様な主体との連携(交流する/つなぐ博物館)
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携・協力を継続できたか(回数) ・観光、まちづくり、そのほかの分野と連携・協力を図り、歴史・文化資源の効用を拡大できたか(分野別回数)
担当課	企画普及課・学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]連携した学校連携の回数(単位:参加・開催件数)																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>件数(実績)</th> <th>件数(目標)</th> <th>件数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>博学連携:小学</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>博学連携:中高</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>博学連携:専大</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和6年度	令和7年度		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)	博学連携:小学				博学連携:中高				博学連携:専大																			
			令和6年度	令和7年度																																
		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)																																
	博学連携:小学																																			
	博学連携:中高																																			
	博学連携:専大																																			
	○[評価指標]連携した分野別の回数(単位:参加・開催件数)																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>件数(実績)</th> <th>件数(目標)</th> <th>件数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会教育 (講座・講演)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査研究 (機関・団体・個人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>報道出版 (取材資料提供)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>展 示 (団体・企業・個人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>まちづくり (イベント共催・協)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>観 光 (ガイド協力・人材育)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そのほか</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和6年度	令和7年度		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)	社会教育 (講座・講演)				調査研究 (機関・団体・個人)				報道出版 (取材資料提供)				展 示 (団体・企業・個人)				まちづくり (イベント共催・協)				観 光 (ガイド協力・人材育)				そのほか			
			令和6年度	令和7年度																																
件数(実績)		件数(目標)	件数(実績)																																	
社会教育 (講座・講演)																																				
調査研究 (機関・団体・個人)																																				
報道出版 (取材資料提供)																																				
展 示 (団体・企業・個人)																																				
まちづくり (イベント共催・協)																																				
観 光 (ガイド協力・人材育)																																				
そのほか																																				
※原則として依頼を受けて開催・実施・参加したもの																																				

成果	(1) (2)
課題	
取組に対する 自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	②資料情報のデジタルアーカイブ化(継承する/発信する博物館)
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市や各地域の歴史・文化を調査研究する上で基礎となる、歴史資料情報を公開・発信しているか(公開件数) ・デジタルアーカイブの公開により、活用しやすい形で情報を発信し、文化資源の活用に寄与しているか(利用数) ・新潟市の歴史像を明らかにする基礎となる文化財の提案(件数)
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	<p>1. 評価指標</p> <p>○データベースの公開点数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 33%;">令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>2. 文化資源としての活用実績</p> <p>○データベースの利用数(ディレクトリータルアクセス件数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 33%;">令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>○データベースの利用数(データベースの画像利用申請点数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 33%;">令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>○文化財の下案提案数(件数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 33%;">令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績				令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績				令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績				令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績			
令和6年度	令和7年度																																				
実績	目標	実績																																			
令和6年度	令和7年度																																				
実績	目標	実績																																			
令和6年度	令和7年度																																				
実績	目標	実績																																			
令和6年度	令和7年度																																				
実績	目標	実績																																			

	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 150px; height: 20px;"></td> <td style="width: 150px; height: 20px;"></td> <td style="width: 150px; height: 20px;"></td> </tr> </table>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデータの作成・公開に当たって、実物の公開では難しい裏側やクローズアップの画像、動画による全体像や質感、動作状況の表現など、ICT機器の性質を活かした発信がなされた 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・総点数に対する公開率 			
取組に対する自己評価	<p>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない</p>			

II. 運営協議会委員による検証	
取組に対する評価	<p>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない</p>
評価のコメント及び今後の課題や提言	<ul style="list-style-type: none"> ・資料寄贈は定期的に問い合わせがあり、資料の収蔵状況によって受け入れの可否を決定している。 ・IPMは学芸の担当者及び設備員とが継続的に行っており、結果に異常がある場合は随時清掃や空調の温湿度管理の調整を行っている。 ・資料購入及び修繕費用の予算の確保 ・資料を良好な状態で将来に継承するため、空調設備の更新が必要 ・新潟市内施設と連携した将来的な文化資源(コレクション)の形成

令和7年度 活動評価表

取組事業	③展示事業:インクルーシブな視点での改善(発信する/つなぐ博物館)
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも博物館を利用・参加できるよう館内の環境を整備し、観光や国際交流における活用価値を高める取り組みができたか(取り組みの数) ・特に外国人・障がい者に向けた情報発信に取り組めたか(取り組みの数)
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

- ①[評価指標]常設展示を市外観光客が理解するバリアとなっている地名にICT機器を活用し解説補助を作成する(単位:コーナー実施率)

令和6年度	令和7年度	
実績	目標	実績
0%	100%	

- ②[評価指標]常設展示にインバウンド向けの外国語解説を、ICT機器を活用して作成する(単位:言語数)

令和6年度	令和7年度	
実績	目標	実績
1	3	

- ③[評価指標]MT作品に視覚障がい者向けの字幕を付ける(単位:実施数)

令和6年度	令和7年度	
実績	目標	実績
0	1	

- ④[評価指標]上記取組のアンケート満足度(単位:「よい」回答%)

令和7年度

	<table border="1"> <tr> <td>取組</td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>70%</td> <td>70%</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	取組	①	②	③	目標	70%	70%	70%	実績			
取組	①	②	③										
目標	70%	70%	70%										
実績													
成果													
課題													
取組に対する自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない												

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及び今後の課題や提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	④教育普及事業・ボランティア事業(交流する/つなぐ博物館)
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少なかった年齢層の利用を開拓する取り組みができたか(年齢段階別取り組み数) ・子どもの年齢層に応じたプログラムを設定し、新潟市の歴史・文化への関心を継続する取り組みができたか(年齢別利用数)
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]はじめてみなとぴあ参加施設数(単位:施設数)														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>施設数(実績)</th> <th>施設数(目標)</th> <th>施設数(実績)</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	令和6年度	令和7年度		施設数(実績)	施設数(目標)	施設数(実績)								
	令和6年度	令和7年度													
	施設数(実績)	施設数(目標)	施設数(実績)												
○[評価指標]高校生ボランティアの参加者数(単位:回)															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">令和6年度</th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>参加者数(実績)</th> <th>活動回数</th> <th>参加者数(目標)</th> <th>参加者数(実績)</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	令和6年度	令和7年度			参加者数(実績)	活動回数	参加者数(目標)	参加者数(実績)							
令和6年度	令和7年度														
参加者数(実績)	活動回数	参加者数(目標)	参加者数(実績)												
○[評価指標]高校生ボランティアの活動充実度(単位:%)															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">令和6年度</th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>「よい」(実績)</th> <th>活動回数</th> <th>よい(目標)</th> <th>よい(実績)</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	令和6年度	令和7年度			「よい」(実績)	活動回数	よい(目標)	よい(実績)							
令和6年度	令和7年度														
「よい」(実績)	活動回数	よい(目標)	よい(実績)												
○[評価指標]子どもの年齢段階別利用者数(単位:人)															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">年齢段階</th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>参加者数(実績)</th> <th>参加者数(目標)</th> <th>参加者数(実績)</th> </tr> <tr> <td>未就学児</td> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小学生①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年齢段階	令和6年度	令和7年度		参加者数(実績)	参加者数(目標)	参加者数(実績)	未就学児				小学生①			
年齢段階		令和6年度	令和7年度												
	参加者数(実績)	参加者数(目標)	参加者数(実績)												
未就学児															
小学生①															

	<table border="1"> <tr> <td>小学生②</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※教育普及事業(博学連携・アウトリーチ・体験プログラム・子ども歴史クラブ・はじめてみなとぴあ・ボランティア)の合計 ①は博学連携の展示観覧者数、②はそれ以外の参加者数</p>	小学生②				中学生				高校生			
小学生②													
中学生													
高校生													
成果													
課題													
取組に対する自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない												

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及び今後の課題や提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	⑤-1展示事業:地域の歴史像を明らかにする(発信する/つなぐ博物館)
評価軸	①合併20周年の節目に、市域の歴史的・文化的な関わりを明らかにし、発信することができたか(展示や講座の開催数) ②みなとまち新潟を結節点として河川舟運で結ばれた合併地域の歴史的な結び付きを示せたか(シアター新作品の製作と観覧者数増加) ③これらの発信を通じて、文化資源の価値を高め、活用を促進することで、文化観光の活性化に寄与できたか(観覧者総数の増加)
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

①[評価指標]合併記念企画展開催

(単位:)

令和6年度	令和7年度	
実績	目標	実績
0	1	

①[評価指標]浜潟山講座の開催(単位:実施数)

令和6年度	令和7年度	
実績	目標	実績
3	3	

②[評価指標]

シアター新作品の製作と効果(作品公開前後の利用者数) (単位:人)

令和6年度	令和7年度	
実績	目標	実績
0%	100%	

③[評価指標]

上記効果として博物館総来館者数の推移(単位:人)

	令和6年度	令和7年度	
	実績	目標	実績
	0%	100%	
成果			
課題			
取組に対する自己評価	評価できる	やや評価できる	やや評価できない 評価できない

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及び今後の課題や提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	⑤-2SNS発信の強化(発信する/つなぐ博物館)
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント広報とは別に、みなとぴあの隠れたフォトスポット(季節や日時によって光る建物や景観、植栽)を調べ、引き出し、魅力を高める写真を発信することでブランディングに寄与できたか(回数) ・ICT端末を活用し、SNSを中心として共感を生み、そのフォトスポットへ行きたくなる写真を発信できたか(回数)
担当課	企画普及課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]事柄別フォトスポット調査件数とSNS発信数(単位:件数)																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>調査件数</th> <th>発信回数(目標)</th> <th>発信回数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">建物</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">景観</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">季節/日周</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出来事</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和7年度			調査件数	発信回数(目標)	発信回数(実績)	建物				景観				季節/日周				出来事			
			令和7年度																					
		調査件数	発信回数(目標)	発信回数(実績)																				
建物																								
景観																								
季節/日周																								
出来事																								
○[評価指標]Xエンゲージメント率(単位:%)																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>エンゲージメント率(実績)</th> <th>インプレッション数(実績)</th> <th>エンゲージメント率(目標)</th> <th>エンゲージメント率(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度			エンゲージメント率(実績)	インプレッション数(実績)	エンゲージメント率(目標)	エンゲージメント率(実績)																
令和6年度	令和7年度																							
エンゲージメント率(実績)	インプレッション数(実績)	エンゲージメント率(目標)	エンゲージメント率(実績)																					
○[評価指標]Instagramエンゲージメント率(単位:%)																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>エンゲージメント率(実績)</th> <th>インプレッション数(実績)</th> <th>エンゲージメント率(目標)</th> <th>エンゲージメント率(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度			エンゲージメント率(実績)	インプレッション数(実績)	エンゲージメント率(目標)	エンゲージメント率(実績)																
令和6年度	令和7年度																							
エンゲージメント率(実績)	インプレッション数(実績)	エンゲージメント率(目標)	エンゲージメント率(実績)																					

成果	(1) (2)
課題	
取組に対する 自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	⑤-3ミュージアムショップの充実(発信する/つなぐ博物館)
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の魅力を高め、利用者の満足度向上とリピーター促進に取り組むためショップの充実化を図り、ブランディングに寄与できたか(売り場面積・販売品種・売り上げ) ・空間・設備・予算の制約の中、企画・開発に取り組めたか(企画開発件数)
担当課	企画普及課

I. 博物館による自己点検と評価

	<p>○[評価指標]ショップの基本的な整備・充実化状況(単位:件数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">各種指標</th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> </tr> <tr> <th>(実績)</th> <th>(目標)</th> <th>(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売場面積(延㎡)</td> <td>㎡</td> <td>㎡</td> <td>㎡</td> </tr> <tr> <td>販売品種(数)</td> <td>点</td> <td>点</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>売上(円)</td> <td>円</td> <td>円</td> <td>円</td> </tr> </tbody> </table> <p>○[評価指標]ショップの企画・開発取り組み(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">各種指標</th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>(実績)</th> <th>(目標)</th> <th>(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新商品検討数</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>仕入等交渉数</td> <td>件</td> <td>件</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>入替実現品数</td> <td>点</td> <td>点</td> <td>点</td> </tr> </tbody> </table>	各種指標	令和6年度	令和6年度		(実績)	(目標)	(目標)	売場面積(延㎡)	㎡	㎡	㎡	販売品種(数)	点	点	点	売上(円)	円	円	円	各種指標	令和6年度	令和7年度		(実績)	(目標)	(目標)	新商品検討数	件	件	件	仕入等交渉数	件	件	件	入替実現品数	点	点	点
各種指標	令和6年度		令和6年度																																				
	(実績)	(目標)	(目標)																																				
売場面積(延㎡)	㎡	㎡	㎡																																				
販売品種(数)	点	点	点																																				
売上(円)	円	円	円																																				
各種指標	令和6年度	令和7年度																																					
	(実績)	(目標)	(目標)																																				
新商品検討数	件	件	件																																				
仕入等交渉数	件	件	件																																				
入替実現品数	点	点	点																																				
成果	(1) (2)																																						

課題	
取組に対する 自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	①多様な主体との連携(交流する/つなぐ博物館)
評価軸	教育機関やまちづくり団体、市民、企業など多様な主体と連携・協力し、単独では実施が難しい事業を実施する。 また依頼に応じて、他の主体の実施する事業に協力する。
担当課	旧小澤家住宅

博物館による自己点検と評価			
評価指標 ・活動実績	○[評価指標]連携する主体の数、連携し実施した事業数		
		令和7年度	
		目標	実績
	主体の数	8以上	
	事業数	10以上	
成果			
課題			
取組に対する 自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない		

II. 運営協議会委員による評価・検証

取組に対する 評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

取組事業	②インクルーシブな視点での改善(発信する/つなぐ博物館)
評価軸	インクルーシブの観点から、誰もが当館を見学しやすく楽しめるよう、ハード、ソフト両面での改善を図る。7年度は、高齢者、身体障がい者に着目して課題を検討する。
担当課	旧小澤家住宅

博物館による自己点検と評価														
評価指標 ・活動実績	<p>①[評価指標]</p> <p>高齢者や体の不自由な方が施設を見学・利用しやすいよう、ハード面の改善を行う。</p> <p>展示方法や人的対応などソフト面でも改善し、利用しやすくする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">令和7年度</th> </tr> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%;">目標</th> <th style="width: 35%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ハード面</td> <td style="text-align: center;">2項目以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ソフト面</td> <td style="text-align: center;">1項目以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和7年度				目標	実績	ハード面	2項目以上		ソフト面	1項目以上	
令和7年度														
	目標	実績												
ハード面	2項目以上													
ソフト面	1項目以上													
成果														
課題														
取組に対する 自己評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない													

II. 運営協議会委員による評価・検証

取組に対する 評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

◆博物館評価の実施サイクル(案)

	R7.2月	→	7月	→	R8.2月	→	7月	→	R9.2月	→
運営協議会	<p><開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本理念、評価書の説明 ・次年度事業計画の説明 (委員から意見を聴取し、それを基本理念、評価書、事業計画に反映) 		<p><開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新委員に基本理念、評価書の説明 ・当該年度の事業中間報告 (委員から意見を聴取し、当該年度の事業に活かす) 		<p><開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の事業実施報告 ・当該年度の評価の実施 ・次年度の事業計画の説明 (委員からの評価や意見を次年度事業計画に活かし、事業の改善に努める) 		<p><開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の事業中間報告 (前回の運協での評価や意見を受け、反映させた部分を説明。さらに意見があれば当該年度の事業に活かす) 		<p><開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の事業実施報告 ・当該年度の評価の実施 ・次年度の事業計画の説明 (委員からの評価や意見を次年度事業計画に活かし、事業の改善に努める) 	

令和7年度 新潟市歴史博物館事業実施計画

◆指定管理事業

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が指定管理者として、下記事業を実施する。

1 展示運営更新事業

事業名	事業概要
展示運営更新	「郷土の水と人々の暮らし」をテーマに新潟市の歴史を紹介する常設展示では、日々の設備点検保守と見学への対応を行う。また、一部展示替え可能なケースを用いて企画展やその折々テーマを設定した展示替えを実施する。また、シアターでは3本の映像ソフトを時間に応じて上映。当年度から2か年計画で新規の映像ソフト(川湊や潟の歴史・文化を発信する映像)の制作に入る予定(「水がっなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業」)。

2 企画展示事業

事業名	開催期間	観覧料	事業概要
①「にいがた てしごと ものづくり展」	4月12日～6月8日	(案) 一般 500円 高校生・大学生 300円 小学生・中学生 200円	新潟で紡がれてきた『てしごと』や『ものづくり』と暮らしのかかわりから新潟の魅力を再発見するとともに、それを受け継ぐ人びとを紹介する。
②「(仮称)戦場の町と村 新潟市と戊辰戦争」展	7月12日～8月31日	(案) 一般 500円 高校生・大学生 300円 小学生・中学生 無料	慶応4(1868)年の北越戊辰戦争では新潟町も戦場となった。本展では現新潟市域の人々と戊辰戦争とのかかわりをひも解く。
③第22回むかしのくらし展	9月13日～11月24日	無料	小学校3年生の社会科「むかしの暮らし」の単元に合わせ、暮らしの移り変わりに関する展示を行う。
④収蔵品展・新収蔵品展	2月14日～3月22日	無料	収蔵品展ではテーマを設けて博物館が所蔵する資料を紹介、新収蔵品展では令和七年度に新たに収集した資料を紹介する。

3 教育普及事業

事業名	実施概要
①体験の広場	体験の広場の施設や資料を活用し、学芸員とボランティアスタッフ・外部協力者により、小学生や家族連れ・大人等を対象に各種の体験プログラムを実施。茶の間の押入スペースを使った展示も実施する予定。
②博・学連携	小学生の見学や中学生の総合学習等に対する館内での対応のほか、ゲストティーチング等、学校へ出向いての授業にも対応。また、新潟大学への寄付講義も例年通り実施の予定。昨年度実施した教師向けの「先生のための『みなとぴあオープンデー』」や、園児向けの「はじめてみなとぴあ」プロジェクトも継続実施している。また、公立中学校の部活動の「地域移行」にも柔軟に対応する。
③博物館実習	新潟大学生を対象とした博物館実習を例年通り実施する。資料の収集・保存や展示公開、体験プログラムの企画、マネジメントなどを講義と実技で学ぶ。実習は、新潟大学生を対象とした4月から11月までの毎月2日間実施する通年編と、夏休み期間を利用し、他の大学生を対象とする集中編に分けて実施する。
④講座	調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的に、各学芸員が講師をつとめる博物館講座(全10回)、館長がプロデュースする館長講座(全4回)、新潟の歴史の特性を座学と現地から学ぶ歴史講座「浜・潟・山の歴史とくらし」(全3回)を実施予定。
⑤ボランティア	当館の活動に理解や関心を持ち、自己実現と社会貢献をめざして館の活動に参加するスタッフで、敷地ガイド・常設展ガイド、体験の広場のプログラムの実施などに従事。当年度も新規に募集し、市民の活動の機会を増やす。近年、高校生ボランティア登録者も増え、それに応じたイベント等も計画・実施する。
⑥その他	「水がつなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業(広域合併20周年企画)」として上記の映像制作のほか、新潟市の合併市町村に共通する歴史・文化として舟運や潟をテーマとしたまちあるき等を実施する。

4 施設普及事業

事業名	実施概要
①広報	「新潟市と戊辰戦争」展などで地元マスコミと共催した広報を実施する。また、県外地方紙へ観光客誘発のための有料広告を掲載予定。その他、企画展やイベントに応じてチラシやポスターを製作し、関係機関・個人・団体に配布する。また、ホームページやSNSを活用した情報発信にも努める。
②地域連携	地元市民団体と共催し、春の「堀と桜のコンサート」、夏の「みなと・しもまち・川まつり」・「夕涼みコンサート」などを開催予定。そのほか、関連団体や学校などと連携し、館内のエントランスなどを会場にしたパネル展なども随時行う予定。

③みなとぴあファンクラブ	当年度も会員を募集し、特典イベントを実施する。年間クラブ費は600円(10月1日～翌年9月30日)、常設展及び企画展の観覧料が団体料金(2割引)となる。そのほか会員特典として博物館の情報を定期的に提供するほか、館長バスツアーや館長講演会、学芸員が講師をつとめる講座やまちあるき、各企画展の解説会などを実施する。
--------------	---

5 調査研究事業

事業名	実施概要
調査・研究	新潟市の歴史を明らかにし、将来にわたって市民の知的財産になるための調査研究を実施。今年度はその成果の一部を研究紀要第22号にまとめるほか、各企画展および各学芸員の講座等で発表する。

6 資料収集・整理・保存・活用

事業名	実施概要
資料収集・整理・保存	市の歴史に関する資料を収集し、市民共有の財産として整理・保存・活用する事業を実施する。資料の寄贈受入れについては寄贈者との信頼・協力関係を保ちながら行うことに留意する。また、新規受け入れ資料を中心に防虫対策のためのくん蒸なども実施する。資料保存に関しては、展示室やケースなどの展示設備をはじめ、展示具を収める展示準備室、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校において、IPM(総合的有害生物管理。環境に配慮し、必要以上に薬剤を使用せず、こまめな清掃や有害生物が館内に入りにくいような物理的環境を整える管理手法のこと。)に則った保存環境管理を行う。

7 管理運営

事業名	実施概要
管理運営	利用者へのサービスに努め、市民に親しまれ、安心して活用できる博物館を目指し、歴史博物館・旧新潟税関庁舎等の管理運営を行う。

◆付帯事業

事業名	実施概要
物販	図録や歴史関連の書籍・グッズなどを販売。
自動販売機の設置	

◆歴史発見プロジェクト（自主事業）

指定管理事業の補完的役割を果たす自主事業。特定費用準備資金制度にもとづいて実施。財源は団体・個人からの協賛金をはじめ、本事業の収益金および学芸員が外部講師等をつとめた際の謝金など。

1 企画展示事業

事業名	開催期間	観覧料	事業概要
①「にいがた映画展」展	12月6日～1月25日	常設展観覧券の購入で観覧可	新潟における映画の歴史をひも解き、映画ポスターや映写機等を展示し、映画館の変遷や新潟がロケ地となった映画、新潟ゆかりの映画人を紹介する。

2 教育普及事業

事業名	実施概要
①古文書上達講座	古文書学習の経験者を対象にした古文書の上達講座。毎月第4水曜日に実施、全10回。受講料5,000円(予定)。
②みなとびあこども歴史クラブ	小学生を対象に、古代から現代にいたる人々の暮らしの一端を体験用にプログラム化し、体験を通じて歴史を身近に感じ、かつての暮らしの知恵や文化財保護を考えるきっかけとする。毎月第3日曜日に実施、全11回。
③大人の体験プログラム	大人が楽しめる歴史・文化にかかわる体験イベント実施予定。
④特別講演会	地域の歴史にとらわれず、幅広い歴史の中からテーマを選ぶ歴史講演会を実施予定。
⑤古町学	旧新潟町エリアを学びの場とし、市民参加によって歴史・文化・魅力を掘り起こす地域学として実施。
⑥外部講師・講座	民間や公民館、その他団体主催の講座・講演会などへ学芸員を講師として派遣する。

I. 博物館による自己点検と評価	
来館者数の目標及び実績	目標 ○○○○○人 実績 ○○○○○人
来館者数の満足度	目標 「良い」「とても良い」が70%以上 実績 「良い」「とても良い」が○%
全体の成果	
全体の課題	
全体の評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない

II. 運営協議会委員による評価・検証	
全体の評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及び今後の課題や提言	

令和7年度 新潟市文化財 旧小澤家住宅 事業実施計画

◆指定管理事業

1 常設展示・企画事業

事業名	開催期間	事業概要
常設展示	通年	みなとまち新潟の歴史や生活文化、また小澤家や旧小澤家住宅について、グラフィックパネルやモニターを使い紹介。
企画事業		新潟町の歴史に関連した企画展や、旧小澤家住宅の風合いに合った企画展等を開催。
①「新潟歴史玉手箱」展	4月12日～5月18日	新潟市内に残る記念碑に焦点を当て、その由来や顕彰の意義を写真パネルで紹介する。
②「筒描」展	5月24日～7月6日	油単(ゆたん)・布団等に使用された筒描(つつがき)を展示し、当時の価値感に基づいたデザインや、職人の手仕事によって生み出された美を紹介する。
③桜井進一氏写真展「昭和の記憶－農村が消えた－」	7月12日～8月31日	昭和30年代以降に桜井氏が撮影した市内農村部の写真を展示し、往時の姿を回顧する。
④「みんなの問題 海のゴミ」展	7月12日～7月27日	一般社団法人JEAN所蔵の海ごみ問題啓発に関する写真パネルを展示する。
⑤新潟郵趣会展「昭和100年－時代と共に生きる切手の世界－」	9月13日～10月5日	明治時代以降の切手、絵葉書等を展示し、郵趣の魅力を紹介する。今年が昭和100年に当たるので、それに因んだものを展示。
⑥「新潟仏壇工芸」展	10月11日～11月3日	新潟市の伝統的工芸品である「新潟仏壇」を展示、紹介する。
⑦「越後の文人 池田孤邨」展	11月15日～12月21日	現在の阿賀野市の生まれで江戸時代後期の琳派の絵師、池田孤邨(こそん)のデジタル複製画「紅葉に流水・山景図屏風」を展示する。アメリカ、スミソニアン国立アジア美術館所蔵の日本画の名品の高精細複製品。
⑧「羽子板」展	令和8年 1月4日～1月18日	贈答品として小澤家に伝わる華やかな羽子板を展示し、贈答文化や正月遊びの羽根つきを紹介する。
⑨「ひな人形」展	令和8年 2月14日～3月22日	桃の節句に合わせ、明治期以降のひな人形や江戸期のからくり人形を展示する。

2 教育普及事業

事業名	実施概要
①体験学習事業	<ul style="list-style-type: none"> ○「仏壇工芸展」制作体験 10～11月 ○「稲穂でつくる正月飾り」講座 11月 ○「クリスマスのリース作り」講座 12月 ○「フラワーアレンジメントワンディレクソン」 2月 ○「稲わらでつくるひな人形」講座 2月
②講座・講習・講演会事業	<ul style="list-style-type: none"> ○企画展関連講演会 「(仮)石造物に見る近世日本海交易」 4月 ○古文書講座 6月、9月 ○庭園講習会 6月、11月
③ボランティアガイド	登録者31名。日頃の館内ガイド活動のほか、全体会、研修会等を実施する。

3 施設普及事業

事業名	実施概要
施設普及事業	旧小澤家住宅の活動を広く市民に知ってもらうため、広報物の作成・配布や、SNSによる情報発信、マスコミを通じたPRを行う。 また季節に合わせて館内の設え(しつらえ)を行うとともに、イベントを開催し、来館の動機付けを行う。
①季節に合わせた設え等	<ul style="list-style-type: none"> ○応接セットの展示 5月頃 ○山野草の展示 5月 ○簀戸(すど)入れ替え 6月1日、10月1日 ○かえるまつり(ミニ展示) 6月 ○きのこまつり(ミニ展示) 10月
②季節に合わせた飲食を伴うイベント	<ul style="list-style-type: none"> ○藤見煎茶会 5月 ○夏至祭 6月15日 ○秋の大文化祭 11月23日 ○年忘れ煎茶会 12月
③企画展等に関連したイベント	<ul style="list-style-type: none"> ○フラワーアレンジメント「花で彩る」 令和8年1月 ○箏と尺八の演奏会 令和8年2月

4 調査研究事業

事業名	実施概要
調査・研究	市民の関心のあるテーマの探求や当館の活動の発展のため、調査研究を行う。 また「旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会」に参加し、協働して活動する。

5 収蔵資料の保存管理事業

事業名	実施概要
資料の収集・整理・保存	小澤家等より寄贈を受けた歴史・民俗・美術・図書等の資料を良好に保存しつつ、展示等に活用する。

6 文化施設管理受託事業

事業名	実施概要
旧小澤家住宅管理事業	文化財としての施設を良好に維持管理するとともに、来館者へのサービスに努める。

◆付帯事業

事業名	実施概要
物販	来館者に対するサービス充実のため、当館オリジナル商品をはじめ、和の文化、みなとまちや歴史に関するグッズや書籍を販売する。

I. 旧小澤家住宅による自己点検と評価	
来館者数の目標及び実績	目標 ○○○○○人 実績 ○○○○○人
来館者数の満足度	目標 「大変良い」「まあ良い」が70%以上 実績 「大変良い」「まあ良い」が○%
全体の成果	
全体の課題	
全体の評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない

II. 運営協議会委員による評価・検証	
全体の評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない
評価のコメント及び今後の課題や提言	